

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 5年 5月 26日	
岐阜県知事 古田 肇 殿	
提出者 住 所 岐阜県高山市久々野町久々野1559番地 氏 名 株式会社 長瀬土建 代表取締役 長瀬 雅彦 電話番号 0577-52-2233	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 長瀬土建
事業場の所在地	岐阜県高山市久々野町久々野1559番地
計画期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	建設業(総合工事業)
② 事業の規模	令和4年度 元請完成工事高 7億5,235万円
③ 従業員数	29名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<div>発生場所 → 運搬 → 中間処理施設 → 最終処分場</div> <p>工事現場等で排出される建設廃棄物の種類により、各中間処理施設へ直接委託する。</p>

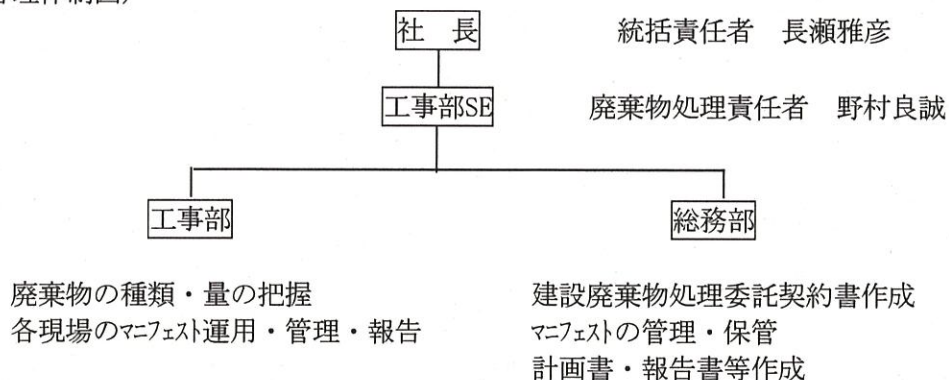
(日本産業規格 A列4番)



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】			別紙のとおり
	産業廃棄物の種類			
	排出量	t		t
	(これまでに実施した取組)			
	良質な幹は木くずでなく、選別して材木やチップとして使用できるようにし、排出の抑制に努めました。			
② 計画	【目標】			別紙のとおり
	産業廃棄物の種類			
	排出量	t		t
	(今後実施する予定の取組)			
	受注工事の内容により排出量は変動しますが、事前に計画をし排出量を抑制できるようにします。			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類・廃プラスチック・木くず・混合廃棄物等 種類により分別して、中間処理施設に運搬しました。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類・廃プラスチック・木くず・混合廃棄物等 種類により分別し中間処理施設に運搬または分別コンテナを使用します。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和 4 年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	廃棄物の種類・量・発生場所により中間処理業者を選定し、契約しました。		

② 計画	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	廃棄物の種類・量・発生場所により中間処理業者を選定し、契約します。処理施設の状況を把握します。(許可証等)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

様式第二号の八の別紙

令和4年度の産業廃棄物発生量（実績）及び令和5年度の目標

（単位：t／年）

項 目	産業廃棄物の種類 (名称)	がれき類	木くず	廃プラスチック類	建設混合廃棄物	合 計
				優良認定処理業者へ	優良認定処理業者へ	
令和4年度の産業廃棄物発生量（実績）						
①・	産業廃棄物発生量	1 6 3 0 . 1 3	1 8 4 . 7 0	3 5 . 2 1	1 3 . 4 8 6	
	② 自己直接再生利用量	9 0 0	6 0	0 . 9 8	3	
	③ 自己直接埋立処分又は海洋投入量					
	④ 自己中間処理量					
	⑤ 自己中間処理残さ量					
	⑥ 自己中間処理後再生利用量					
	⑦ 自己中間処理後自己埋立処分 又は海洋投入量					
	⑧ 直接委託及び自己中間処理後委託 処分量	9 0 0	5 0	0 . 9 8	3	
k	再生利用量					
l	中間処理による減量					
m	最終処分量					

令和5年度の目標

令和5年度の目標

- (注) 1 特別管理産業廃棄物及び一般廃棄物は記入しないでください。
2 記入欄が不足する場合は、コピーしてお使いください。
3 単位を間違えないよう注意してください。

令和4年度の産業廃棄物発生量（実績）及び令和5年度の目標

（単位：t／年）

項 目	産業廃棄物の種類 (名称)		金属くず	石綿含有産業 廃棄物	汚泥	水銀使用製品 産業廃棄物	合 計
			優良認定処理業者へ	優良認定処理業者へ		優良認定処理業者へ	
	令和4年度の産業廃棄物発生量（実績）		7.065	0.6	0.07	0.01	
令和5年度の目標	① 産業廃棄物発生量		1.0	0	0.02	0	
	② 自己直接再生利用量						
	③ 自己直接埋立処分又は海洋投入量						
	④ 自己中間処理量						
	⑤ 自己中間処理残さ量						
	⑥ 自己中間処理後再生利用量						
	⑦ 自己中間処理後自己埋立処分 又は海洋投入量						
	⑧ 直接委託及び自己中間処理後委託 処分量		1.0	0	0.02	0	
k	再生利用量						
l	中間処理による減量						
m	最終処分量						

(注) 1 特別管理産業廃棄物及び一般廃棄物は記入しないください。

2 記入欄が不足する場合は、コピーしてお使いください。

3 単位を間違えないよう注意してください。

令和4年度の産業廃棄物発生量（実績）及び令和5年度の目標

（単位：t／年）

項 目	産業廃棄物の種類 (名称)	特定産業廃棄物 鉱さい	ガラスくず、コンクリートく ず及び陶磁器くず			合 計
		優良認定処理業者へ	優良認定処理業者へ			
令和4年度の産業廃棄物発生量 (実績)						
①・	産業廃棄物発生量	2. 5 9	3 0. 5 6			1 9 0 4. 4 2 1
②	自己直接再生利用量	0	5			9 7 0
③	自己直接埋立処分又は海洋投入量					
④	自己中間処理量					
⑤	自己中間処理残さ量					
⑥	自己中間処理後再生利用量					
⑦	自己中間処理後自己埋立処分 又は海洋投入量					
⑧	直接委託及び自己中間処理後委託 処分量	0	5			9 7 0
k	再生利用量					
l	中間処理による減量					
m	最終処分量					

令和5年度の目標

令和5年度の目標

- (注) 1 特別管理産業廃棄物及び一般廃棄物は記入しないでください。
2 記入欄が不足する場合は、コピーしてお使いください。
3 単位を間違えないよう注意してください。